

新部長 紹介

4月の人事異動で
新しく部長になられたお二人です。



健康福祉部長
おおくま すみよ
大隈 寿美代

健康福祉部では、「笑顔でつなぐ 元気で健やかなまち」の方針のもと、いつまでも健康で、楽しく、安心して暮らせる地域を目指して、福祉や健康に関する支援を行っています。住民の皆さんにとって、分かりやすいサービス提供や支援に努めます。



産業振興部長
しらいし ひろり
白石 浩範

農工商併進のまちづくりを基本に、各産業分野の振興と活性化を図り、町全体の経済の発展を目指していきます。また、お祭りやイベントを通して、町民の皆さんと一緒に元気で賑わいのあるまちづくりを推進していきます。

議会活性化特別委員会 意見交換会

議員定数と報酬について 区長会執行部との意見交換



「投票所での投票が見られながら、投票に行く人が少ない。スコットの投票所は良かった」など、他にも沢山の意見をいただきました。委員会で反映していきます。

令和6年4月11日に議会活性化特別委員会と区長会執行部との意見交流会を行いました。まず、山本委員長が趣旨を説明し、佐藤副委員長が「大津町議会の議員定数について」を説明しました。区長会からは「議員の立候補者を増やしたいのか、報酬を増やしたいのか」「報酬を増やしても立候補しようとは思えない。何人必要なのかが根底になると思う」「区長と議会との関係性は強い。議会活性化を望む」「オーグスの場を議会カフェにしてはどうか」「議会の仕事量はどれくらいなのか。仕事が増えれば報酬も増えるべきだ」と思う。「選挙が一度無投票だったから定数削減というのは早急すぎるのではないか」「無投票は議員の責任だけではないか」「住民の意識の問題」「投票所での投票が見られながら、投票に行く人が少ない。スコットの投票所は良かった」など、他にも沢山の意見をいただきました。委員会で反映していきます。

志は高く、ハードルは低く 第2回 選挙にはどのくらいお金がかかる？



来年初めに予定されている大津町議会議員選挙を前回のようにならざるを得ないよう、少しでも多くの方に「その気になってもらう」ため掲載する本コラム。
第2回目は誰もが関心をもつと思われる「選挙にはどのくらいお金がかかる？」を取り上げます。（なお、内容は大津町議会議員選挙の規模・事例を想定したものです。）

【立候補準備費用と選挙費用】

「選挙活動の費用」は、実際に立候補して選挙運動を行う費用です。（図①黄色の部分）
選挙活動のやり方は候補者により様々で、一概には言えませんが、一般に図②のような支出が考えられます。

【使える額には上限がある】

選挙活動の費用には上限があり、大津町の場合、概ね 280 ～ 290 万円です。「えっ、そんなに!」と思われるかもしれませんが、これはあくまで上限額でこれ以上使ってはいけない額です。

【一部は公費で負担する】

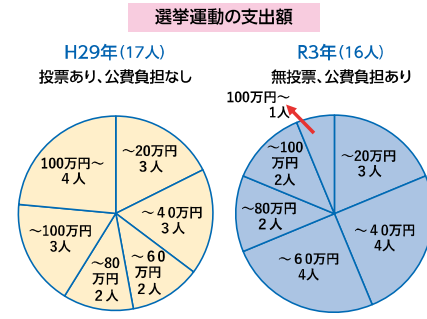
前回選挙からは費用の一部を公費で負担することができるようになりました。
対象となるのは図②で赤文字で示したもので、それぞれに単価・上限が定められています。最大額は約 55 万円です。

【供託金は 15 万円】

反対に、供託金が必要となりました。立候補する際に法務局に一時的に預けるお金です。これには、公費負担をあてにした安易な立候補が乱立することを抑制する効果があります。
供託金は一定の得票数があれば戻ってきます。町の有権者数を 2 万 8 千人、投票率を仮に 60% とすると、この数は 105 となります。

【実際、どのくらいかかる?】（概算、千円以下四捨五入）

H29とR3の過去2回の選挙運動収支報告書の報告をもとに、実際にどのくらいの費用がかかっていったかをみてみます。



H29年の支出額を見ると、半数以上が80万円以内です。もし公費負担があれば最大額は70万円程になっていたと思われます。

R3年の支出は選挙期間が1日だったことからさらに低く抑えられています。公費負担を除く、候補者負担は平均で28万円弱になります。

確かに、選挙にはそれなりの費用はかかりますが、費用を削減しても成果は得られることをご理解いただけたでしょうか。
今後、ネット選挙運動が広がればさらに経費の節減も可能になるでしょう。

今後の掲載予定 第3回 立候補の手続きは大変? 第4回 選挙運動ってどうやるの?